

城西大学薬学部創設40周年記念特別展

ポーラ・コレクションからみる  
化粧と化粧品品の歴史  
— 装飾化粧から化粧療法まで —



2013年  
11月2日[土] ▶ 11月30日[土]

◎開館時間／午前10時～午後4時

◎休館日／日曜日・月曜日 ※学園祭により11月3日(日)、4日(月)は開館

◎会場／城西大学水田美術館ギャラリー2

◎主催／城西大学薬学部

◎特別協力／ポーラ文化研究所

※本展覧会は無料でご覧頂けます。



図版 上=三代歌川豊国《江戸名所百人美女》部分、大判錦絵、安政5年(1858)  
右下=《アールヌーヴォー風鏡台》大正時代、《レットワード》平尾賛平商店 大正4年(1915)  
以上、ポーラ文化研究所蔵

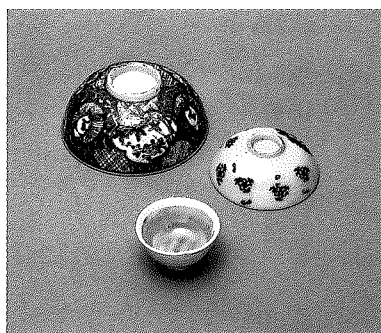


城西大学水田美術館  
MIZUTA MUSEUM OF ART, JOSAI UNIVERSITY

〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1-1 お問い合わせ先:049-271-7327 <http://www.josai.ac.jp/~museum/>

# ポーラ・コレクションからみる 化粧と化粧品品の歴史

— 装飾化粧から化粧療法まで —



上段左= 歌川国貞《名筆浮世絵鑑》大判錦絵、文政(1818~30)頃、上段右=《橘唐草散散蒔絵化粧道具》江戸時代後期(18世紀)、下段左= 紅猪口 江戸時代末期~明治時代  
右から径7.7cm 径4.1cm 径8.0cm、下段中= 粉白粉 昭和時代 各径7.0cm 高2.5cm、下段右= 伊東胡蝶園ポスター《御園クレーム》昭和7年(1932)頃 以上、ポーラ文化研究所蔵

この度、城西大学薬学部創設40周年を記念して、水田美術館において「ポーラ・コレクションからみる化粧と化粧品品の歴史—装飾化粧から化粧療法まで—」を開催する運びとなりました。

本学薬学部では、健康維持は「薬」だけで保たれるのではなく、「化粧」をすることで、ベッドで横たわる高齢者が病室を歩き回る例にもあるように、医療における化粧のちからも重要と考え、薬学教育では、薬のみならず栄養素や化粧品をも視野に入れた取り組みを行っています。さらに、薬・サプリメント・化粧品などは、安全性が求められるため、これら化学物質の安全確保にも薬学のちからが必要となります。

化粧の歴史は装飾化粧から始まり、女性の自己表現のための化粧、患者の心をいやす化粧療法の実践と、時代の流れとともに

化粧と化粧品品の様相も様変わりしています。また、薬指を古くは薬師指とも、紅差し指、紅つけ指とも呼び、薬を溶かしてつける時や、唇に紅をつける際に用いていたことから、薬と化粧品が隣り合わせであったことが伺えます。

本展では、ポーラ文化研究所より格別なご協力をいただき、ポーラ・コレクションの中から、江戸~昭和初期にかけての化粧道具や化粧品、また、当時の化粧風景などを描いた浮世絵をご紹介し、化粧が装飾化粧、女性の自己表現の手段へと変化していく過程を薬学的視点からご紹介します。また、医療現場における化粧と患者との関わりも合わせてパネルでご覧いただけます。

本展が、化粧と化粧品品の歴史を改めて知るとともに、私たちが今後それらとどう向き合うかを考える機会となれば幸いです。

## 【関連企画】

## ■講演会

11月9日(土)

午後1時30分~午後3時

◎演 題:「最新コスメ事情—化粧品の有用性とリスクを考える—」

◎講 師: 杉林堅次氏(城西大学副学長・薬学部教授)

◎場 所: 16号館(薬学部棟)206教室 ※聴講無料/要予約

## 【交通案内】

### ■電車の場合

東武東上線坂戸駅乗換えて東武越生線川角(かわかど)駅 下車、踏切を渡り徒歩10分

### ■お車の場合

1. 関越自動車道鶴ヶ島インター下車、鶴ヶ島方向に進み国道407号線を直進 2. 「脚折町四丁目」交差点で右折し、左にローソン、右に狩野動物病院の看板がある交差点で右折 3. 一本松交差点を毛呂山方面に直進 4. 橋(万年橋)を渡り、「明海大学病院」の看板のある交差点を左折し、直進、踏切を渡り坂道を上がる(約20分)



**城西大学水田美術館**  
MIZUTA MUSEUM OF ART, JOSAI UNIVERSITY

〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1-1 【開館時間】午前10時~午後4時 【休館日】日曜日・月曜日  
お問い合わせ先: 049-271-7327 <http://www.josai.ac.jp/~museum/>

